

2.5 北見市医療福祉情報連携システム「北まるnet」(北海道北見市)

〔概要〕

北海道東部のオホーツク地方に位置する北見市は、平成の大合併で、1市3町(北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町)が合併し、人口12万5千人のオホーツク圏最大の都市です。東西に延びる道路の距離は110kmに及び、面積は1427平方キロメートルで香川県の77%にあたり、北海道では第1位、全国で第4位の広さです。広大な街であるにも関わらず、中核病院をはじめとする医療機関は中心部に偏在しています。また、高齢者の人口は26%を超え高齢化が極めて急速に進み、本格的な超高齢社会を迎えようとしており、高齢化に伴う生活習慣病疾患の早期発見・発症予防・重症化阻止、発病後の医療・施設・在宅サービスなど、限られた社会資源を有効に活用できる支援が急務となっています。

一方で保健・医療・福祉を取り巻く環境は、医師不足、受け入れ施設の不足、在宅生活支援に伴う関係機関の連携不足などの課題が未解決です。従来縦割りであった保健・医療・福祉の横の繋がりを強め、市民が安心して暮らせる共生社会の再構築が必要不可欠となっています。

北見市では、6年ほど前から、実務を担当している医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、リハビリテーション療法士などで構成される任意団体(オホーツク脳卒中研究会、北網地域リハビリテーション推進会議等)を設立し、医療・介護連携の問題点を抽出し、解決策を模索してきました。

しかし、ヒューマンネットワークは醸成されたものの、紙媒体が主体の医療・介護の情報連携は定着せず、そこに問題意識を抱いた北見医師会理事が、医師会としても積極的な支援を行えるようにと医師会長を筆頭に北見市医療福祉情報連携協議会を設立しました。連携のツールを、「紙」から「電子化」へシフトさせ、ICT(情報通信技術)を活用したネットワークシステムの整備、医療と介護のヒューマンネットワークの構築、市民と地域関係機関へのコンセンサスをコンセプトに活動を開始し、平成24年10月より医療福祉情報連携システム「北まるnet」を稼動しています。

〔コラム〕

(1) 協議会参加機関

病院:8機関、診療所:7機関、歯科診療所:2機関、調剤薬局:6機関、訪問看護ステーション:2機関、介護老人保健施設:3機関、特別養護老人ホーム:3機関、包括支援センター:7機関、居宅介護支援事業所:7機関、他介護事業所:8機関、北見市、北見地区消防組合、北見医師会、北見歯科医師会、北見工業大学

(2) 協議会の使命

協議会は、平成23年7月に北見医師会会長を会長として、市内の医療機関、介護事業所、大学、消防組合の17団体で設立されました。翌年度にはオブザーバであった北見市も会員として参画しています。平成24年度末で50ヶ所を超える機関から会員登録がありました。

協議会の使命は、ICTを活用し保健・医療・福祉情報を集約すること、集約した情報を利活用し医療・福祉機関の連携を強化することです。それらを実現させるために、9つの事業目標を掲げ取り組んでいます。

1. 健康医療情報共有のための情報基盤の構築とその利活用に関すること。
2. 地域連携クリニカルパスの電子情報化による効率的運用に関すること。
3. 地域診療連携システムの構築に関すること。
4. 健診データ管理及び脳卒中・糖尿病・CKD・COPDなどの慢性疾患における診療連携のためのデータ管理に関すること。
5. 介護福祉分野等での共有情報の利活用に関すること。
6. 情報基盤から得られる公衆衛生的データの解析による地域の健康増進に関すること。

2 先進的な事例紹介

- 7. 救急医療における共有情報の利活用に関すること。
- 8. 「お薬手帳」の電子化、処方箋の電子化、薬局での服薬指導に関する共有情報の利活用に関すること。
- 9. 健康医療情報共有のための情報基盤に関する連絡協議及び情報交換・研修に関すること。

(3) 北まるnetのシステム構成

北まるnetは、現在3つのシステム「医療・介護情報連携システム」、「介護認定審査会システム」、「要介護者・要援護者・社会資源GIS」で構成(図1)されています。

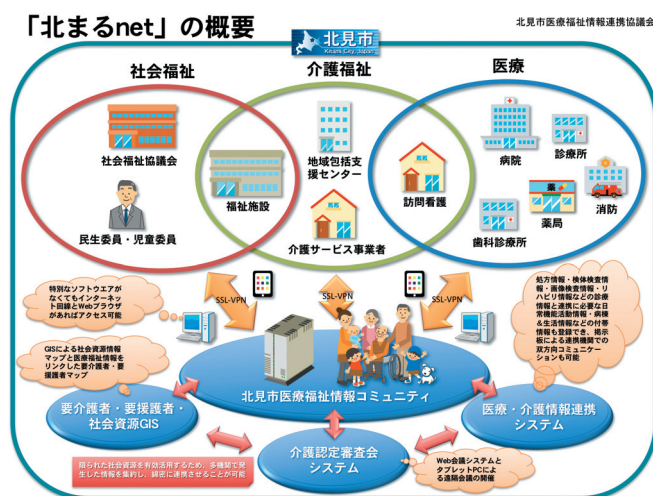


図1 「北まるnet」の概要

(4) 医療・介護情報連携システム

医療・介護情報連携のシステムは、処方、検査、病名といった診療情報や、入院中の生活情報やリハビリなどの各種評価といった付帯情報を登録したり、連携機関のコミュニケーションツールとなる掲示板機能など、医療から介護にいたる幅広い機能を搭載(図2)しているのが特徴です。医療・介護連携の試行運用では、「都合のいい時間に書き込めるため、連絡する時間帯に縛られない」「これまでより担当ケアマネージャーと内容の濃い情報共有を実感できた」「システム活用により確かな情報共有が行え、業務効率が上がった」などの成果が得られました。



図2 医療・介護情報連携システム

(5) 介護認定審査会システム

介護認定審査会システム(図3)は、審査会資料のペーパーレス化と審査会のWeb会議化を実現しています。審査会委員は、クラウドサーバから審査会資料をタブレット端末にダウンロードし、事前チェックを行い、Web会議にて審査します。24年11月から運用が開始され、審査会委員からは、「紙資料で実施しているときと変わらない時間で終了している」「冬道を時間かけて会議に行かなくて済むので助かる」との評価をいただきました。

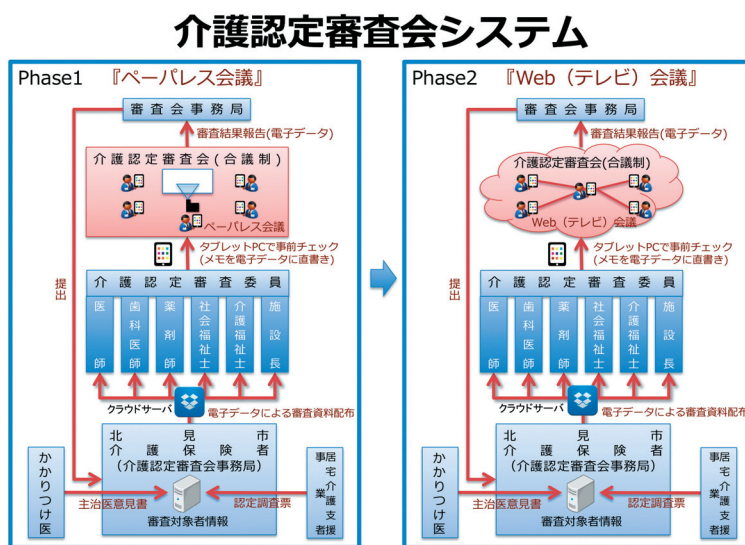


図3 介護認定審査会システム

(6) 要介護者・要援護者・社会資源GIS

GIS(地理情報システム)上に患者宅や社会資源等のランドマークレイヤー(公的機関、医療機関、介護機関、社会福祉機関、民生委員、避難場所)を重ねて表示(図4)することができます。ケアマネジャーが介護サービスを計画するときに参照したり、救急隊がかかりつけ医や病歴・服薬歴を確認したり、災害時の安否確認に利用したり、といった場面で活用できるよう機能拡張の準備を進めています。

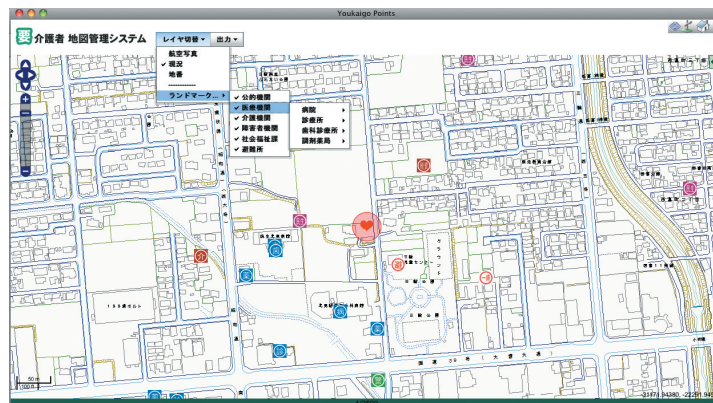


図4 要介護者・要援護者・社会資源GIS

(7) ネットワーク構成

ユーザは、SSL-VPNでサーバに接続し、ユーザ認証を経て利用できます。基幹サーバは、Webサーバ(Apache)とデータベースサーバ(FileMaker)から構成されて、地図用のGISサーバとHTTPで連携しています。ユーザ用のサーバ(FileMaker)も設置し、基幹サーバからデータをエクスポートしてもらい、データの2次利用を容易にできるようにしています(図5)。

運用上の特徴は、インターネット回線とWebブラウザがあれば動作しますので、会員機関を拡大する際、特別なパソコンやソフトを用意しなくても手軽に参加できることがセールスポイントとなっています。

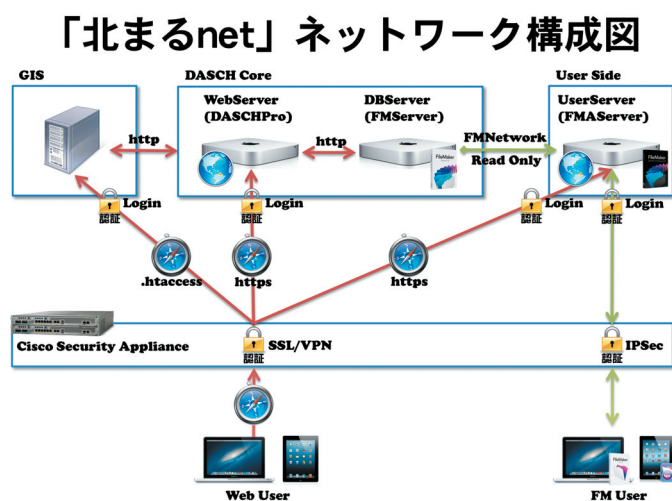


図5 ネットワーク構成図

(8) 今後の展開

現在は、医薬情報連携ツールとして電子お薬手帳システムを構築しています。また、北まるnetに入力された情報を2次利用し、救急搬送時に患者の医療情報をタブレット端末上で参照できるシステムを構築しています。

(問い合わせ先)

北見市医療福祉情報連携協議会

TEL:0157-23-2787

e-mail:info@kitamaru.net

URL:http://kitamaru.net/